



■2016年1月のマンスリーNEWS 第138号



ベトナム・ホイアン日本橋の中の猿

皆様、あけましておめでとうございます

いよいよ2016年の幕開けとなりました。

商売はとても厳しい環境ですが、私達、アークル一同頑張ってこの荒波を乗り越えていきます。

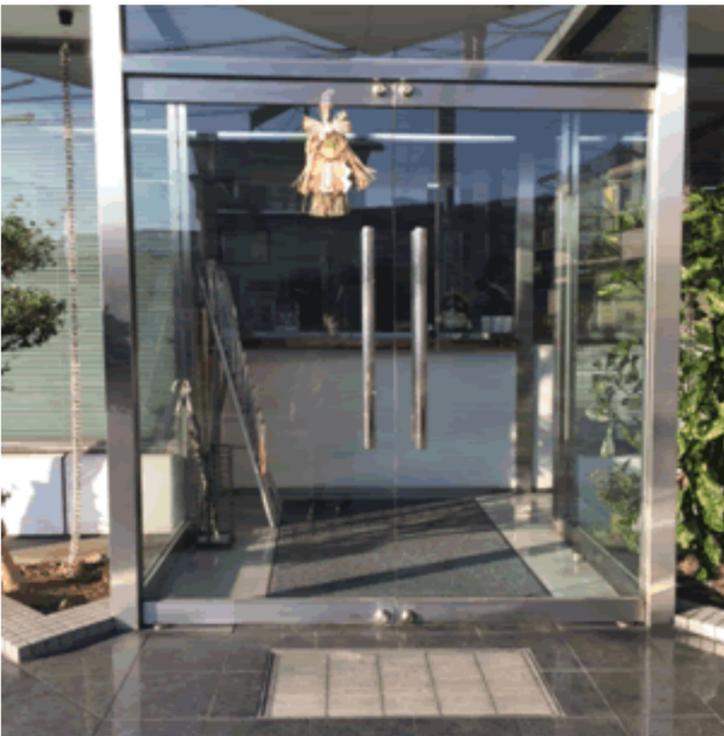
今年が皆様にとって素晴らしい年となるように社員一同祈念しています。

今年もアークルをよろしく願い申し上げます



■コラム  
■1月のアークル

2016年はどんな年になるのだろう？



その前に昨年1年間をちょっと振り返ってみましょう。

昨年は一言で言えば、私達飲料業界は「激動」の年でした。

消費税増税後の値上げで自販機売上が減り始めた昨年の冬の中、突如 **J T** が飲料事業からの撤退を発表。ただでさえ、今後の行方に戸惑いがある中、さらにその不安に拍車がかかったのです。

私達、飲料自販機の業界は2000年ぐらいをピークに昨年あたりまではそれほど大きなうねりはありませんでした。飲料メーカーも相変わらず、シェア争いの名の元に自販機の設置場所の確保を一番としていました。しかし、昨年から完全に潮目が変わりました。価格の値上げ、コンビニの台頭などで自販機が前ほど売れなくなってきたのです。

また、自販機自体の開発も来るところまで来、いよいよ自販機マーケットの衰退期に入ってきたと実感させる年だったのかもしれない。

自販機の売上減少は特にアウトに設置してある自販機が顕著でした。コンビニのカウンターコーヒーなどにじょじょに食われたのかもしれない。アウトに比べインロケの自販機は落ち込みはあまりありません。

さてこのような状況下、私達も変化しなければなりません。弊社のモットーは時流に合わせた経営です。世の中の変化には対応するのが生き残る道と考えていますので、変化に対応しなければならなかった年でした。

まずはJ T問題。私達は飲料を撤退したJ T自販機を利用して、独自のオリジナル自販機（こだわり）をつくりました。俗に言う白機です。

白機は格安商材、売れ筋商材などをミックスで入れることができるので、メーカー機よりもよく売れるのです。



しかし一言でオリジナル機と言っても簡単ではありません。新しい商品の仕入れ、自販機のリニューアル、デザインなど非常に手間のかかる仕事です。また現状でもこの「こだわり」は1年も経っていないので試行錯誤が続いている状態です。

次にアウトロケーションの自販機売上の低下についてです。これは今後開拓をアウトからインにシフトしなければなりません。しかし、簡単にシフトできるものではなく、インロケ開発はそれなりのノウハウが必要なのです。

これについては、ありがたいことにダイドーさんが勉強会を催してくれました。ダイドーのインロケ開発のプロがノウハウを伝授してくれたのです。しかし伝授されただけではダメで実際に動いていかなければなりません。現在これも実行中で、答えが出るのはまだ先になります。

確実に営業の考え方は変わりましたので今後に期待といったところです。

そして最後に自販機オペレーターの本来の仕事であるオペレートについてです。これについてはここ数ヶ月のマンスリーで書いてあるように細かな分析を始めています。いかにロス率（売り損じ）を下げ、効率よく回収が出来るかこれがテーマになりこれについても今後さらなる追及をしていく必要があります。具体的には今年の秋にシステムを完全にリニューアルする予定です。

最後に人材問題です。今後は若者が不足するということが人材確保が難しくなってきます。これを解決するために、より効率的に作業が出来るように環境を整えていく必要があります。これについても、現在「より働きやすい委員会」を設けじょじょに改善を図っているところです。

それにしても変化対応が多すぎて、本当に忙しい1年でした。またこれらはこれで終ることなく、今後も引き続き続けていかなければなりません。

また最大の問題として自販機ビジネスに変わる新たな商売を模索していくことも必要です。自販機ビジネスの未来は大きな視点から見て、決して明るいものではありません。しかしすぐになくなるものでもありません。しっかりとこのビジネスに取り組みながら新たなビジネスチャンスを探っていく必要があります。

課題満載の2016年の船出ですが、このようにやるべき事がある程度明確になっていますので、これらの課題をしっかりと解決し、そしてどんどん進化していくアークルでありたいと考えています。

さて先月期の振り返りを少ししておきたいと思います。

ここ数ヶ月、ふるわない業績ですが12月も厳しい結果となってしまいました。暖か





い天候も大きな要因で特にコーンスープやおしるこなどのレトルトの落ち込みが激しかったです。

実は12月というのは、ホット製品が良く売れ業績は1年の中でも悪くない月でしたが、昨年今年と悪い月の中に入ってきた感があります。要因は天候だけでなくコンビニのカウンターコーヒーの影響が大きいと考えています。

最近では自販機の業界は、一部のメーカーを除いては激しいロケ獲り合戦は影を潜めています。今までの様に自販機を増やせば売上がどんどん上がるということが無くなったからです。売れないロケに自販機を置いてしまうと、商品管理が出来なかったり、効率的作業の妨げになってしまうケースも出てきて、やみくもに自販機を設置すればよいということは完全になくなりました。

非常に興味深いのはそんなことはおかまいなしに、ライバルが動いていないことを良いことに今まで通り自販機をどんどん設置しているメーカーが1社ありました。

他社は冷静な目でそれを見ていましたが、すぐに結果になって表れてしまうでしょう。

弊社は確実にニーズのあるロケを開発していくのはもちろんのこと、新しい自販機のあり方を模索して行く必要があると考えています。例えば、「**こだわり**」（弊社の白機）のバージョンアップです。

通常メーカー機はメーカーの意向が反映される自販機です。つまりどの自販機も同様のカテゴリ商品が並ぶこととなります。例えば、ダイドーとサントリーの自販機が2台並んでいるとします。

どちらにもたくさんの種類のコーヒーが並び、お茶、炭酸、スポドリとまったく同じカテゴリ商品が並ぶのです。また今の時期ではどちらもホットにするので2台分の電気代がかかります。

それを各1台ずつ、カテゴリに分けてしまえば、片方の1台はホットにしなくても済むのではないのでしょうか。例えば、1台をコーヒーオンリーの自販機にしてしまうのです。

こんなことができれば3台の自販機は2台に減らせますし、電気代もさらに安くなります。また白機であれば各社の売れ筋商品が入りますので、やみくもに自販機を増や必要もなくなります。

弊社の「**こだわり**」、今後新しい可能性に満ちている自販機と考えているのです。

もちろんメーカー機はメーカー機で怠ることはありませんので、力を注いでいきますが、今後はメーカー・白と両輪ということになるのでしょうか。



## ■コラム

### ■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5		白機売れ筋ベスト5	
1位	新ダイドーブレンドコーヒー	1位	ボス マスターズ微糖	1位	ワンダ モーニングショット
2位	細缶 Mコーヒー	2位	ボス レインボーマウンテン	2位	ワンダ 金の微糖

3位	ブレンド微糖185	3位	ボス 贅沢微糖	3位	ファイア 微糖
4位	無糖珈琲 樽	4位	南アルプス天然水550 P	4位	レアル (ブラックBC)
5位	デミタスコーヒー	5位	ボス カフェオレ	5位	THE COFFEビター

## ■コラム

### ■ 臆病者のための資産防衛術2016

橋玲 週刊文春12/24号より

橋玲 (たちばなあきら) 氏の経済コラムは必読です。ちなみに私は彼のほとんどの著書は読破させていただきました。

さて彼はどのように今後の経済をみているのだろうか？



簡単にまとめてみました。

(以降引用)

アベノミクスが実施され、はや3年。だが日本の借金は増え続け、財政破綻への道をひた走っている。

この不可避の危機にどう立ち向かえばいいのか。そのヒントは安倍政権が掲げる「1億総活躍」にあった。

国家破綻にも動じない最強の「資産防衛術」とは。

### アベノミクスの核心とは？

デフレ退治と日銀改革。具体的には「政府と日本銀行が政策協定を結び、明確なインフレターゲットを設定」「物価目標を2%の目標」とした。つまりリフレ政策ということなのです。

まず安倍総裁は「合理的期待形成」という金融政策を実施する。これは「ひとは事実と経験から合理的な予想をする」という話で簡単な理屈だ。

2012年11月「2%～3%のインフレ目標を設定し、それに向って無制限の緩和をしていく」と講演しただけで、その翌日日経平均が8000台から9000台に急騰した。13年4月、黒田日銀総裁が「2%」「2年」「2倍」のボードを手に、大規模な金融緩和をと「黒田バズーカ」を発表した。すると、株価は高騰、為替は大きく円安と動いた。

さてこのリフレ政策の理論とはどのようなものなのだろうか？これは結構簡単な理論で、みんなが「景気がよくなる」という期待をしたとしよう。毎年2%の物価が上がるのだから、マイホームやマイカーを値上がり前に買っておこうと思うだろうし、経営者は設備投資を前倒しにするだろう。するとみんなが争ってお金を使うので市場の金回りがよくなり、企業の利益も増え株価も上がり賃金も増える。懐が暖かくなれば財布のヒモはさらに緩むから景気がますます良くなる。

それではこのアベノミクスから3年経ってその結果はどうだったのだろうか？

まず株価だが、2012年12月と現在では1万から1.9万へ約2倍となったが、円安を分を割り引かないといけない。ドル換算でやるとわかりやすい。3年で120ドルから150ドルと1.3倍になった。これが正しい株価上昇で、イメージとしては外国人投資家にとって半値で日本株を買い叩けるようになったと言ったほうがよく、これをはたして「株価上昇」とはいえるのであろうか？

そして最大の問題はバズーカをうったのにもかかわらず、肝心の物価が全然上がらないことだ。2013年の消費者物価指数の上昇率は0.4%、14年は消費税増税で上昇したものの、今年はずーとゼロ近辺をうろうろしている。

日本の借金は増え続ける

物価が上がらないのだから「風が吹けば桶屋が儲かる」式のアベノミクスは起動せず、GDPは12年の520兆円から15年の530兆円へと10兆円増えただけで、目標とする経済成長率2.1%には遠く及ばない。もっともわかるのは1人当たりのGDP (国民の豊かさの指標) の推移で12年世界14位だったのが、14年は22位まで下がり香港、シンガポールまで抜かれてしまった。2020年には韓国にも追い抜かれるとの

推計もあり、アベノミクスの3年間で豊かさを失い続けている。

訪日外国人が800万人から2000万人に増えたのは「おもてなし」の魅力ではなく、安く旅行できる手頃な国になったからだ。

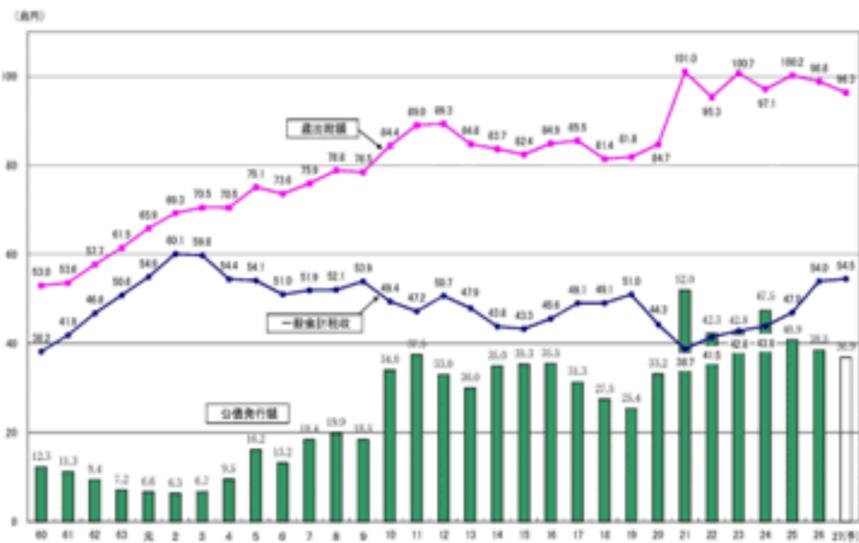
アベノミクスは金融市場の「期待」を変えて株価と為替を動かすことは成功したが、実体経済の「期待」をほとんど動かせなかった。

なぜうまくいかなかったのでしょうか？

それは右グラフで説明できる。平成2年（1990年）バブル崩壊あたりから、歳入が落ち込み始めそれにもかかわらず歳入を抑えられず、その差がどんどん広がっていく様子がわかる。

つまりこの足りない歳出分を国債発行で補ったため、結果GDPの2倍に達する1000兆円もの借金を抱えるようになってしまったのである。

これは常識のある人なら「合理的不安」を抱くのは当然だ。



15年の歳出内訳の伸び率の大きいものは国債費（7.3％）と社会保障費（19.32％）で、意外なことに公共事業関係費は民主党時代とほぼ変わらない。

国債費は借金の返済なので、国債の発行残高が増えるにつれて増えていく（金利が上がればさらに増える）。社会保障費は年金や医療・介護に投入する経費なので、高齢化によって膨らんでいく。どちらも自然増なので好き勝手に削るわけにはいかない。その結果15年の税収が10兆円増えたにもかかわらず、36.9兆円の新規国債を発行しないと予算が成り立たなかった。

### タイムリミットはあと5年

財政収支を改善できなかったらどうなるのか？実はこれもわかっている、2020年以降に国家財政は破綻する。これは単なる推測ではなく、財務大臣の諮問機関である財政制度等審議会が2015年10月9日に公表されている。つまりタイムリミットはあと5年しかない。

日銀が大量に国債を買い続けるのは、金利を維持するためでもはやインフレなどどうでもよくなっているように見える。

「国家破産」を避けるためには、増税によって歳入を増やすしかない。いずれ消費税は欧州並みの20%台まで引き上げられ、年金支給開始年齢は70歳になり、医療費の自己負担も上がるだろう。これは日本の運命だから泣いてもわめいてもどうしようもないことだ。

### いちばんの問題は労働生産性

それでは明るい未来のためにはどうすればいいのだろうか？そのヒントは安倍政権の「1億総活躍」にある。

1人あたりのGDPを見ると日本人はどんどん貧しくなっているが、それは労働者の怠慢ではなく「働く仕組み」がうまくいっていないからだ。日本の会社は社員を長時間拘束するが、そこから産まれる利益が少なすぎる。

アベノミクスの3年間で失業率は1.2%下がりほぼ完全雇用を達成したが、これは景気回復というより、生産年齢人口が230万人減ったからで、その一方で非正規雇用は8.2%も増えている。大規模な移民政策が現実的でない以上、働き手不足を解消するには、女性ばかりでなく高齢者にも輝いてもらわなければならない。これが「1億総活躍」の真意だ。

高齢者の労働市場からの退出は定年制で、一定の年齢に達した社員を強制解雇する制度でアメリカ・イギリスでは違法だ。日本でも同様にすれば、多くの高齢者が働けるようになる。しかし現状の年功序列の人事制度では高い給与を貰っているのに、定年でいったんリセットしないと会社は人件費が膨らみ経営が成り立たなくなってしまう。

### 国家リスクから切り離せ

今後のシナリオ、①楽観シナリオ（アベノミクス成功で高度経済成長が再び始まる）、②悲観シナリオ（現状の低成長が続く）、③破滅シナリオ（大規模な経済的混乱が起きる）の3つのシナリオがある

中で、①の楽観シナリオどうやらなくなったようだ。現状では②、③の可能性を真剣に考えたほうがよさそうである。「経済的混乱が起きるのを待ってはじめて財政改革に着手する」という筋書きが現実的である。

金融資産を守るための原則はものすごくシンプルで「個人のリスクを国家から切り離す」ことにつぎ。資産をすべて米ドルで保有していれば、日本の財政が破綻して円が紙くずになってもまったく困らない。

為替は相対的なものなので、あらゆる通貨に分散することでより安全にリスクを回避できる。これが国際分散投資の基本だ。近所の銀行で外貨預金でもいいし、株をやっているなら世界の株式市場に分散投資するETFでもいい。

## 老後を短くする

大きな問題は高齢者の多くが年金というかたちで国家に資産運用をアウトソースしていることで、年金制度が危機に陥ると社会は大きく動揺する。

老後問題の本質は老後が長すぎるにある。だったら不安をなくすには老後を短くすればいい。つまり働ける間は働くというこだ。

今後は100歳でも元気な老人がめずらしくなくなる。そう考えれば「年金で悠々自適」は破滅への道だ。高齢化社会の最強の人生設計は生涯現役（生涯共働き）以外にない。じゅうぶんな人的資源があれば「国家破産」など恐れることはない。

元気なうちは若者とともに働き、引退してもボランティアなどに参加し、すべての日本人が80歳を超えて「活躍」しつづけることが、豊かな未来を作っていくのだ。

どうやら日本は最悪の方向に向っているのは間違いなさそうです。資産を持っている人は外貨に！年金はあてにせず、健康に留意して働けるうちは働いて稼ぐ！ということでした。

しかし、日本の財政破綻、ちょっと怖いです。

## ■コラム

### ■ところでGDP増大は幸せか？

今回経済分野のコラムを書きましたので、ついでにGDP 600兆アップの新アベノミクスについて私の異論を少し……

先頃、アベノミクスの新たな3本の矢の1つとしてGDPを100兆アップして600兆に、という発表がなされました。私達、実際に現場にいる人間としては、「はあ〜！？何言ってるの？」という感じなのが本音なのではないでしょうか。

ちなみに私は「GDP増大=幸せ」とは思わないですが、皆さんはどう考えますか？先月号で紹介した、「Uber」や「Airbnb」などのシェアリングエコノミーは分け合えるものはどんどんシェアし、合理的な世の中にしようとするもので、結果的にはGDPを増大させるというよりは、減少させるものなではないでしょうか？

最近、思うのは「昔に比べて安くなったな〜」ということです。それに伴って価値観もすごく変わってきたというのが実感で、実はそれって「GDP減少=幸せ」のような気がしてきているのです。

例えば、「ユニクロ」。質の良い洋服を今までの1/5で提供するようになった。「JIN」「Zoff」などの眼鏡店。「BookOff」などの古本屋。1000円床屋。「ニトリ」の家具。コンビニのカウンターコーヒーなど。ありとあらゆるところで、質がいいのに値段がはるかに安いというすさまじい変化を見せています。

実はこれらは、生活の価値感を根底からひっくり返すものなのかもしれません。最近の消費傾向は「無駄や虚飾の習慣はかっこ悪い」といった感じになってきているのは、このようなお店が出現してきたからなのではないでしょうか。

つまり実は「GDP減少=幸せ」というのは以外とあるのかもしれないということなのです。

今までの「GDP減少」のイメージは節約モードで消費が停滞した状態、とか、価値あるモノが売れず、廉価な粗悪品しか売れない状況とか、一円でも安い調味料を買うため自転車でスーパーをハシゴす



る主婦とか、正社員を減らして安い非正規雇用を増やす企業、なんてイメージがあるかもしれません。

しかし今はその逆で、「GDP減少」は無駄や虚飾の習慣を廃し、分け合えるモノはどんどんシェアするなど、合理的に行動し、不要なモノにお金を払うのをやめて、その分、残業せずに個人の時間を増やす。こんな感じになるのではないのでしょうか？

■コラム

■激ウマB級グルメ 第82弾

### 磯子の隠れ家洋食店

また今回、洋食店のレポートリーが新たに1店加わりました。

それにしても、このお店本当にわかりにくいところにあるんです。まさに裏路地。こんな場所でやっているのはやはり地元民に愛されているからなのでしょう、なんて勝手に思っています。

洋食って、日本人の基本的な外食というイメージですよ。ね。（ファミレスで育っているからなのか）しかし本格的で美味しい洋食店って以外と無いものです。



このマンスリーでも数店紹介しましたが、確か小田原の店は1軒だけだったと思います。

そんな美味しい洋食店を求めて今回は横浜の磯子まで、足を伸ばしたのです。

お店の名前は「西洋料理 たじま」。ご夫婦2人で切り盛りしているお店です。

今回注文したのは、ビーフシチュー、カキフライ、パンプキンスープで、ランチタイムだったのでコーヒーやミニサラダは無料。

店内に入ると、まるで中華料理の大衆店に来たようなイージーな雰囲気。連れはこの店大丈夫？とやや懐疑的な様子です。

しかし料理が運ばれて一口食べれば、そんな懐疑的な気持ちは一発で吹き飛びます。私はランチタイムのサービスミニサラダの野菜を食べたときにそれがすぐわかりました。野菜がとてもシャキシャキしていて、かかっているドレッシングがすごく美味しい（たぶん市販のものではない）。

そしてパンプキンスープを食したとき、この店本物だということを確認しました。とてもクリーミーで、やさしいお味。寒い時期に身体をしんから温めてくれそうなお味です。



メインのカキフライはやや小ぶりのカキですが、とてもジューシーで揚げすぎず、かといって生臭さは一切なし。プロの味と見ました。また添えつけのタルタルが一般のものとは全然違い、モッテリとしていて、とても濃厚に見えるのですが食べてみると意外とあっさり。個人的にはソースをかけてさらにこのタルタルを付け加えるぐらいがちょうどいいと感じました。

次にビーフシチューです。これ洋食店の基本みたいなメニューの1つですが、やっぱり初めてのお店となるといろいろ試してみたいですよ。しかし、なかなかお腹がそれを許してくれません。やはり王道のビーフシチューは頼んでおかなければということで。



ビーフシチューは先頃上野の名店「[ぼん太](#)」で美味しいビーフシチューをいただいているので、比較ができるかもしれません。

さてお味のほうは・・・？

ん！これは上野のものとはまるで別物！

まず、デミグラスソースが全然違うのです。どちらかと言えば、こちらのほうがやや濃い目かな。そして肉は上野ほど柔らかくないけれど、肉感がしっかりしている分とてもボリューム感があります。かと言って決して、固いお肉ではありませんよ。十分柔らかいお肉です。

また付け合せのポテトやほうれんそう、人参は美味しい！

「[都会の洋食の名店](#)」といった雰囲気はゼロだけど、逆にこんなお店が地元があれば毎週通うのにもと思わせるお店です。お値段もリーズナブルで、ビーフシチューは2000円ですが、その他はほとんど1000円前後です。また平日ランチもやっているようで、こんどは平日狙いで行ってみようかな。

路地裏にひっそり潜む洋食の名店、皆様も是非トライしてみてください。

店名 [西洋料理たじま](#)

住所 [横浜市磯子区広地町1-12](#)

T E L [0465-751-7926](#)

休み [月曜日](#)

#### ■コラム

### ■[アークルの人達ブログ](#)・絶好調連載中です!

ただいまブログは7名が更新中です。

- ・ [熱血小田原所長日記](#)
- ・ [販促部次長の成長日記](#)
- ・ [販促課マネージャーの日記](#)
- ・ [海老名の所長ブログ](#)

・開発道

・開発リーダーのブログ

・小田原チーフの奮闘ブログ



生・五郎丸 見てきました！

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願いします。

#### ■2015年度のマンスリーNEWS

<a href="#">→</a>	2015.12	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.11	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.10	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.9	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.8	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.7	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.6	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.5	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.4	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.3	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.2	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>
<a href="#">→</a>	2015.1	<a href="#">アークル</a>	<a href="#">マンスリーNEWS</a>

#### ■マンスリーNEWSアーカイブ

<a href="#">→</a>	最新	<a href="#">マンスリーNEWSトップページ</a>
<a href="#">→</a>	2014年度	<a href="#">2014年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2013年度	<a href="#">2013年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2012年度	<a href="#">2012年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2011年度	<a href="#">2011年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2010年度	<a href="#">2010年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2009年度	<a href="#">2009年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2008年度	<a href="#">2008年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2007年度	<a href="#">2007年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2006年度	<a href="#">2006年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2005年度	<a href="#">2005年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	2004年度	<a href="#">2004年のマンスリーNEWSアーカイブ</a>
<a href="#">→</a>	番外編	<a href="#">マンスリーレポート番外編</a>

